平成27年度第2回京都市図書館協議会摘録

○日　　時：平成28年3月3日（木）
　　午前10時～12時
○場　　所：京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）　第３研修室Ａ
○出席委員：[10名中８名出席]
　　今野　圭子　委員
　　岩崎　れい　委員
　　北村　哲夫　委員
　　角谷　真子　委員
　　永田　信一　委員
　　福井　雄大　委員
　　松田　　晋　委員
　　山下　純夫　委員　　（五十音順）

○傍 聴 者：1名

１　開会
（１）出席委員紹介
（２）中央図書館長の挨拶

２　報告事項
事務局から資料に基づき以下の項目について報告した。

（１）子ども読書の日記念事業及び秋の読書週間記念事業について
ア　２７年度「子ども読書の日」記念事業
メイン事業は「谷川俊太郎トークライブ」。今年度は読書量が急減する中学生を対象とした取組を中心におこなっており，「言葉の力を育む」をテーマに，谷川さんと５人の中学生との対談などを実施した。
また，ビブリオバトルティーンズ大会を行い，小学５年生から中学３年生の子どもたちが参加。
さらに，平成２８年度から施行される障害者差別解消法に先立ち，２７年４月に中央図書館で，京都市子ども文庫連絡会の協力の下，「世界のバリアフリー絵本展」を開催。また，これに関連し，中央図書館で「みんなで布絵本を作りましょう」と題するワークショップを開催。

イ　秋の読書週間記念事業

メイン事業として，絵本作家である，ふしはら のじこ さん による「アフリカで学んだお話の楽しみ」と題する講演会を京都市子ども文庫連絡会との共催で実施。アフリカの話やアフリカの国に図書館を建設する活動などを中心に密度の高い話をしていただいた。

その他，ビブリオバトルティーンズ大会や読書絵はがき展を実施。

ウ　平成２８年度「子ども読書の日」記念事業

乳幼児期からの読書習慣の確立をサポートするという企画をメイン事業として実施予定。赤ちゃん行事の充実に取り組み，京都市子ども文庫連絡会の協力の下，４中央館で「赤ちゃんといっしょ！～赤ちゃん絵本の会～」を実施予定。また，ブックリスト「本のもり」の乳幼児編を改定し，あわせて PR する。

また，主に中学生を対象に，「第２回京都市図書館ビブリオバトルティーンズ大会」として，４つの中央館で予選を行った後，４月２４日に決勝を中央図書館で開催予定。

さらに，２７年度から一般の利用者の方々向けにブックリサイクルを実施しているが，その子ども版を中央図書館で実施予定。

また，全館でのおたのしみ会の実施等を継続して行う。

（２）京都市図書館の平成 27 年度の取組状況について

ア　第２回ブックリサイクル

平成２８年１月１５日から２２日まで実施。１回目からの変更点は，利用者の方からの寄贈本を含めて提供を行ったこと。寄贈本の提供にあたっては，事前に寄贈者の方からの許諾を得ている。

準備冊数・提供件数提供冊数は前回を上回った。開館前からリサイクルを目当てに並んでおられる方々もおられ，定着してきたと考えられる。２８年度も引き続き実施していきたい。

イ　図書館改修状況

第３次子ども読書活動推進計画に基づき，平成２６年度からの５か年計画で，トイレの洋式化と，地域図書館の児童コーナーの改修を実施していく。

２７年度は，トイレの洋式化については中央図書館，児童コーナーの改修については東山図書館と西京図書館で実施した。

（３）平成２８年度予算（案）に係る新規事業について

現在，市議会で審議中の事案であり，可決されればという前提で説明させていただく。

ア　中央館４館で土曜日の開館時間延長の試行実施

図書館では，利用実態に応じて，平日に夜間開館を実施しているが，土曜日・日曜日・祝日は午後５時までとしている。しかし，利用者の方々から休日の開館時間を延長してほしいという要望，特に土曜日の開館時間延長を望む声が多く寄せられていたことから，平成 28 年５月から８月までの４か月間の土曜日に，利用者の多い中央館４館（中央・右京中央・伏見中央・醍醐中央）において，開館時間を「午後５時まで」から「午後７時まで」に延長することを試行的に実施する。

イ　京都版ブックスタート事業

すべての乳児を対象とする保健センターの８箇月健康診査で，従来から絵本の読み聞かせを通じて，親子の触れ合いを図り，子どもの健やかな成長と育児支援に資することを目的に，市民ボランティアにより読み聞かせやアドバイスを行う「絵本ふれあい事業」を実施している。この取組に併せ，絵本一冊と地域の図書館や書店等の紹介冊子等を合わせた「読み聞かせスタートパック」を贈呈することで，親子で一緒に絵本に触れ合い，親しむきっかけとなる「京都版ブックスタート事業」を行う予定。所管は保健福祉局となる。

ウ　隣接自治体との図書館相互利用

これまで，京都市図書館での館外貸出用の図書館カードの発行については，①京都市在住の方又は②京都市に通勤・通学されている方に限定しているため，隣接自治体の住民の方々から，「京都市図書館の図書等を借りたいので，図書館カードを発行してほしい。」という声が少なからずあった。

そこで，本市図書館では，市域が隣接し，古くからの地域的なつながりの深い宇治市及び大津市と連携することで，図書館サービスの広域的拡充や市民の読書環境の向上などを図ることを目的に，図書館相互利用サービスを平成２８年４月１日から実施する。

このことにより，閲覧，貸出，予約，レファレンス，複写等のサービスが受けられるようになる。

エ　移動図書館「こじか号」の更新

山間部など図書館を利用しづらい地域にお住まいの方でも図書館を利用していただけるよう,移動図書館を運行している。現在の車両を平成 14 年４月に使用開始して以来，走行距離が約 10 万 km 近くとなり，老朽化が進んでいることから，28 年度中に更新を行う。

３　報告事項に関する質疑応答

意見：　子どもの本のブックリサイクルは，今後も実施していくのか。

回答：　まずこの４月に実施し，利用される方々などの反応を見て，今後のことを検討していきたい。

意見：　この間，中学校との連携を進めてきているが，中学校への要望などはあるか。また今後の取組予定は。

回答：　学校図書館運営支援員を対象とした研修を教育委員会と連携して実施。また，学校団体貸出による支援をもっとスムーズにしていきたいと考えている。

意見：　京都版ブックスタートについて，保健センターの８箇月検診でスタートパックを贈呈するとのことだが，そこで図書館カードの発行のために申込書に記入してもらい，後日発行するということはできるのか。

回答：　その場で住所等を記入してもらうこととなり，個人情報保護の観点から難しい。前もって，保護者の方がどのような本がもらえるのかを確認するために図書館に来てもらえれば，図書館利用にもつながり，スムーズにいくのではと考えている。そのためにも保健福祉局とも連携していきたい。

意見：　隣接自治体との図書館相互利用について，京都市のカードで大津市などで図書を借りられるというのではなく，身分証明書等を持って大津市や宇治市の図書館に行けば，それぞれの図書館カードを作成してもらい，それぞれのカードで図書を借りることができるという理解でいいか。

回答：　その通り。

意見：　たとえば，大津市のカードを作れば，そこのインターネットサービスなどを利用できるのか。

回答：　同じように利用でき，予約も可能。

意見：　本を借りるには，大津市に行く必要があるのか。京都市の図書館での受取はできないのか。

回答：　大津市に行って借りることが必要。京都市の図書館では受け取ることができない。

意見：　隣接自治体との図書館相互利用は，個人貸出のみが対象なのか。学校団体貸出は対象ではないのか。

回答：　個人貸出のみ。学校団体貸出は対象外。

意見：　開館時間の延長は，中央館のみか。

回答：　中央館のみ。コストをかければ他館も可能だが，限られた予算でサービスを拡大しようとすると，多くの方の利用が想定される４中央館までが限界。費用対効果の問題であり，今回の試行を踏まえ，今後どうしていくか検討したい。

意見：　平日は，５時以降の利用が多いのか。

回答：　中央館は多い。地域館は，その地域によって様々。

意見：　隣接自治体との図書館相互利用をさらに拡大していく予定はあるのか。

回答：　２８年度からは２市と提携していくが，事前協議は全ての隣接自治体と行った。内部調整等の関係で２８年度からの実施に間に合わなかった市町村もあるので，それらについては引き続き協議等を行う。

意見：　移動図書館の巡回場所の決定基準は何か。

回答：　近隣に図書館が無いなど，図書館を利用しづらい地域に巡回している。また，移動図書館の駐車スペースが必要なことから，スペースを確保できる場所に巡回している。

意見：　移動図書館の利用実績は。

回答：　平成２６年度実績で，個人貸出 49,971 冊，団体貸出 1,555 冊の計 51,526 冊となっている。

回答：　移動図書館はとても感動的である。移動図書館が来ると，多くの人たちが駆けつけてくる。利用される方々と図書館側との間でとてもパーソナルな関係が構築されている。

意見：　移動図書館がどのように利用されているかを一度拝見したいと思う。

回答：　検討する。

意見：　移動図書館は何人くらいの方が担当しているのか。

回答：　専属で５人が担当。

意見：　巡回場所については，これまでも変遷があったと思うが，車両を更新するのを機会に，時代の移り変わりも踏まえ，また見直しなどもしていただけるとありがたい。

回答：　状況に応じて，対応していきたい。

意見：　ブックスタートに関して，ハンディキャップのある子どもたちに対する配慮も，予算の問題もあると思うが，行っていただきたい。

回答：　関係機関とも協議していきたい。

４　協議事項

＜事務局から協議事項について説明＞

前回の協議会での意見を踏まえ，次の４点について提案し，協議していただきたい。

（１）ホームページでの情報提供・広報について

前回の協議会において，広報を効果的に行ってはどうかという意見が出たので，図書館として提供できる情報を積極的にホームページに公開できないかという観点で，３つほど提案させていただく。一つ目は，ベストリーダー（貸出回数の多い資料）及びベストオーダー（予約の多い資料）の提示。二つ目は，魅力的だがあまり貸出しされていない資料の紹介。そして三つ目が司書による書評の掲載。

ア　ベストリーダー及びベストオーダーの提示

京都市では，直近の１週間で予約の多い上位５０位までの本を，「人気のある本」としてホームページに掲載している。これはいわゆるベストオーダー。情報の提供は職員が手作業で行っている。また，貸出回数の多い資料であるベストリーダ

ーについては，京都市では現在のところ実施していない。他都市に関しては，東京都の葛飾区立図書館で，ジャンルごとに，前年度のベストリーダー・ベストオーダーをホームページ上で掲載している。

京都市においてベストリーダー・ベストオーダー両方を掲載する場合は，前年度の集計結果を年度当初に掲載することを検討している。

イ　魅力的だがあまり貸し出しされていない本の紹介

図書館には専門書や学術書など，重要だが多くの方が読まれない本が一定数ある。昨年，国際基督教大学図書館や江戸川区立松江図書館などにおいて，一度も借りられていない図書の展示フェアを行い，新聞報道等で話題となった。京都市でもデータの抽出は可能なため，どのように提示するかも含めて慎重に検討していきたい。

ウ　司書による書評の掲載

京都市図書館広報誌「京図ものがたり」へ司書がすすめる本の掲載や，各館のテーマ展示の際に簡単な本の紹介や本のもりの作成，ティーンズ向けのブックリストの近隣中学校等への配布等を実施しているが，書評のホームページへの掲載は未実施。他都市では，例えば広島市立図書館は，ビジネス支援の一環で，月１回，司書によるビジネス書の書評を HP に掲載している。京都市でも実施できないかを検討している。

（２）外国語の案内表示・絵文字サインの活用等

京都市では，ホームページに簡易な図書館利用案内を英語・中国語・ハングルで提供しているが，紙の利用案内は日本語のみ。絵文字サインについては，右京中央図書館などで，携帯電話使用禁止などの図書館のルールに関して絵文字と文字を交えて実施している。

今後は全館的な取組として，どういう形がいいかを検討していきたい。

（３）図書館の多目的スペース等でのまち歩き講座等の実施

前回の協議会で，まち歩き事業などを行う際に，図書館の資料で事前に学習会を開催すれば，理解が深まるという議論があり，図書館で多目的スペースを活用できないかという意見があった。これまで，東山図書館では，区役所等と連携し，区役所の会議スペース等を活用し，「文学散歩」を実施したことがある。全ての図書館で多目的スペースを確保できるわけではないので，使用に関する要綱等を整備したうえで，右京中央図書館の研修室等で実施できないかを検討していきたい。

（４）大学・専門家との連携

これまで，岩倉図書館での京都産業大学との連携による「天体天文教室」，同じく岩倉図書館での京都精華大学との連携による「クリスマス会」，そして左京図書館

での京都ノートルダム女子大学との連携による「朗読会」などを実施している。
既存の取組を継続させながら，新たな連携等も検討していきたい。

最後に，参考として，２８年２月に実施した図書館アンケートに関して，充実を希望するサービスについての意見を一部抜粋して掲載したものを添付している。図書の充実や開館時間の延長，駅等の返却ボックスの増設等が意見として挙げられている。

5　協議事項に関する質疑応答

意見：　現在，返却ポストは京都市役所駅に設置されていると思うが，東西線と烏丸線が交差する烏丸御池駅に設置する予定はないのか。

回答：　利用の多い駅に返却ポストを設置できないかということを交通局とも協議をしたが，スペースの問題や流通のトラックのための駐車スペースの確保の問題等で，実現はしていない。ただ，市長の公約で返却ポストの駅等への増設が挙げられているので，今後も検討していく予定である。

意見：　魅力的だがあまり読まれていない本の紹介はぜひやっていただきたい。図書館に行く目的は，目当ての本を借りるだけでなく，知らない本と出会うことも楽しみであるため。

意見：　今回のアンケートに関して，アンケート自体の回収率等の数値は出ているのか。その数値に基づく分析は。

回答：　アンケート自体が２月中を目途に実施したもので，現在集約中。次回の協議会では，具体的な数値等をもとに分析を行ったものを，アンケート結果として提示したいと考えている。

意見：　アンケートの主な意見にある「蔵書検索内容の詳細をもっと詳しく表示してほしい」について，自分のやり方もあると思うが，思っているように表示してくれないこともあるので，うまくいく検索方法などを提示していただけるとありがたい。

回答：　同様の意見はたくさん寄せられている。システム更新の際に参考にさせえていただきたい。また，図書館には司書がいるので，分からないことなどがあれば，気軽に御相談いただけるよう PR していきたい。

意見：　２月にアンケートを実施されたとのことだが，年間を通じて利用者の方の意見を聞く機会などはあるのか。

回答：　各図書館に意見箱を設置し，意見を聞かせていただいているが，それほど頻繁には利用されていない。今回のアンケートにもかなりの意見を書いていただいているので，ある程度意見は集約できると考えており，できるだけ意見を反映できるように検討していきたい。

意見：　今回のアンケートでは，年代を書く欄があり，中学生への取組を進めるに当たり，中学生がどのくらい図書館を利用しているのか等の調査のために，経年の結果などがわかると，より良いのではないか。

回答：　今回このようなアンケートを全館的にやるのは初めてであり，全館的に経年のデータ等はないが，右京中央図書館ではこれまでから同様のアンケートを実施してきたので，それらの結果を提示することは可能。

　中学生に対しては，同じ中学生などの同世代が進める本の展示などを行うと，よく借りられる傾向がある。司書の書評と同世代の薦め本の２つの方法で中学生にアプローチしていきたい。

意見：　ブックスタートは保健福祉局との連携で実施するとのことだが，他の行政機関と図書館との連携はあるのか。

回答：　区役所とタイアップし，図書館の PR 等をさせていただくことはあり，今後も深めていけると考えている。地域的つながりを大事にしながら，連携を進めていきたい。

意見：　博物館と図書館の連携について，いわゆる MLA 連携だけではなく，国によっては，学校教育の支援のための博物館と図書館との連携があるが，その辺りは京都市ではどうか。

回答：　国立近代美術館との連携として，美術館での展示に関連した図書の展示を図書館で行うなどの取組を実施したことはある。さらに一歩進んだ教育との兼ね合いについては，まだできていない分野ではある。

意見：　子ども向け郷土資料が少ないので，寺社と連携して子ども向け資料を作ったりするのも一つの考えである。

回答：　子ども用の郷土資料については，生涯学習部で郷土資料のリストを作成しており，図書館も協力させていただいた。その中で課題となったのは，良い資料でも絶版等で手に入らないものが少なからずあったこと。出版社に掛け合っても，再版が難しいことが分かり，どのようにすれば再版してもらえるのか，お知恵をお借りしたい。

意見：　学校内で先生が児童・生徒にお薦めの本などを掲示していると聞くが，それらを公共図書館で集約して，他校の児童・生徒にも紹介できればいいのではないか。

回答：　情報提供していただければ，図書館ホームページ等で掲載可能であり，システム更新の協議の中でも参考にしていきたい。

意見：　中学校によっては，図書委員の生徒が頑張っていて，お薦めの本などを廊下に提示するなどの取組をしている。これらの情報も学校図書館運営支援員が集約して，図書館にも情報提供などしてくれれば，連携が深まると考える。

意見：　図書館の中の本を集めて，それを市内の様々な図書館に巡回して展示するというのも考えてはどうか。

意見：　学校団体貸出の関係で，同じ本が複数冊無く，班での調べ学習で使用しづらいことがある。同じ資料を複数用意してもらえると助かる。

意見：　他都市で学校団体用の貸し出しセットなどがあると思うが，今後はこの利用も検討の余地があるのではないか。

回答：　セット貸出については，その効果の検証が必要。いざ使用する際に，意外と使用しづらいというケースもあるのではないか。京都市の考え方としては，先生方が大変忙しいのは重々承知しているが，先生方が図書館に来ていただき，資料を直接選んでいただく事が子どもたちにとっていいのではないか。また複本についても要望を聞いているが，教科書以外の資料を使った調べ学習ということで，一つのテーマでも別々の本を使用することにより，視点が変わるということを子どもたちが経験することになり，一つのテーマをより深められるという考えもある。現在のところ複本対応はしていない。様々な意見があるので，それらを踏まえ，学校との連携を深めていきたい。

回答：　本日，様々な有意義なご意見をいただいたので，できるところから，少しずつであるが実現していきたい。